



理事長年頭挨拶

愛知県バドミントン協会
理事長 朝倉 康善



新年おめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。

昨年は11月4日、5日に本会初めての取り組みとしてS/Jリーグ2023の開幕戦をウイングアリーナ刈谷にて実施しました。両日共に2,000名を超える大変多くのお客様に観戦いただき、盛大に開催することができました。支えていただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。2024年度は2026年に予定されている愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会に向けて各地区の体育館が大幅な改修をするため、S/Jリーグ2024の県内開催が難しい状況にあります。その分はアジア大会の成功に向けた準備を重ねる期間にしたいと思っております。

今年は年明け早々に「バドミントンAICHIフェスタ」を開催しました。バドミントンと接点がなかったジュニア層の皆さんに体験いただく機会や、また、最新のトレンドを指導者の皆さんにお伝えするイベントなど、多くの来場者楽しんでいただくことができました。こうした愛好者拡大の取り組みは、本会の大切な財産として今後も長く育んでいきます。

間もなく次年度の活動計画を策定する時期を迎えますが、今年度の活動をしっかりと踏まえ、さらに前進する企画を立てていきたいと思っております。皆様からのご意見をお願いします。

S/Jリーグ 2023 刈谷大会

令和5年11月4日(土)・5日(日)S/Jリーグ2023刈谷大会がウイングアリーナ刈谷で開催された。

愛知県としては初の開幕戦で、男子はJブロックの6チーム(ジェイテクト、NTT東日本、三菱自動車京都、豊田通商、金沢学院クラブ、丸杉)、女子はSブロックの6チーム(再春館製薬所、BIPROGY、丸杉、七七銀行、広島ガス、PLENTY GLOBAL LINX)が一同に集結し、大変賑やかで華々しい大会となった。

初日の注目はNTT東日本の桃田選手。怪我からの復帰でようやく調子を取り戻した戸内選手(豊田通商)との対戦は圧巻のパフォーマンスで、会場に詰め掛けた2,200人の観客を釘付けにした戦いぶりだった。

2日目は、丸杉の福島・廣田組対BIPROGY 中西・東野組の戦い。観客が固唾をのむ長いラリーが続く熱戦だったが、中西・東野組が2ゲーム目22-20で勝ち切り、団体も2-1でBIPROGYが勝利した。丸杉は単で小西が勝利しただけに痛い黒星となった。



NTT東日本 桃田選手

また地元勢では、ジェイテクトが初日、丸杉に3-0、2日目三菱自動車京都に2-1と順当に勝利を重ねた。初出場の豊田通商は初日の対NTT東日本には0-3で敗れたが、2日目の金沢学院クラブに2-1で勝利し、応援に駆け付けた地元の観客を大いに沸かせた。

(広報委員長 浅井 淳)



BIPROGY 中西・東野組



丸杉 福島・廣田組



ジェイテクト 野田・相澤組

第42回 全日本ジュニアバドミントン選手権大会

9月16日～18日にかけて、スカイホール豊田、刈谷ウイングアリーナで、第42回全日本ジュニアバドミントン選手権大会が開催されました。

多くの日本代表選手が優勝経験をもつ伝統ある大会です。高校2年生から中学3年生までのジュニアの部、中学2年生以下のジュニア新人の部が設けられ、この1年高校・中学校の数々の大会でしのぎを削った選手たちにとって最高位の大会です。県代表の人数に限られている他の大会とは違い、埼玉栄高校・ふたば未来学園高校などの強豪校から、多くの選手が参加しました。これらの選手たちの軽快なフットワーク、華麗なラケットワークは、質の高いラリーをもたらし、初戦からハイレベルな試合が続きました。

その中であって、愛知県勢も多数参加し、力を尽くしました。結果としては、ジュニアの部ダブルスで、向井温菜選手・清田乃愛選手(名経大市邨高)のペアがベスト8に入りました。

また、ジュニアの部シングルスで、男子の山脇弘奨選手(豊川市立金屋中学)、女子の松本紗季選手(富士松中学)が、ベスト16まで勝ち残りました。それぞれ、対戦した相手が決勝に進出しており、今後は全国トップ選手と対戦した経験を活かしてほしいと思います。

山脇弘奨選手 豊川市立金屋中学(愛知) VS 山田琉碧選手 福井工業大附属福井高(福井)

第1シード選手への挑戦となった戦い。1ゲーム目から丁寧に相手を前後に揺さぶるも、チャンスが決め球になり切らない苦しい展開のまま、ゲームを落とす。2ゲーム目も同じ展開になり、11-6と差をつけられ、インターバルに。ただ、ここから山脇選手のクレバーな追い上げが始まる。体力の落ちる後半に入っても、相手を前後に振り、効果的にカットを使うことで、相手の足を奪っていく。攻撃も、ハーフのスマッシュと決め球のスマッシュとを巧みに使い分け、ついに18点で追いつく。勝負のラリー。どちらも決め球ともいえるようなショットを何度もしのぎあう長い長いラリー。最後に山脇選手のロブがバックアウトして決着したとき、両者は共に膝に手をつき肩で息をするほどであった。その後、そのままの展開で勝敗は決したが、決勝に進んだ相手に、自分のラリー戦略で対抗できていた。(12-21 18-21)



山脇弘奨選手

松本紗季選手 富士松中学(愛知) VS 松田仁衣菜選手 福井工業大附属福井高(福井)

中学生ながらここまで勝ち上がるも、ショット力のある第2シードとの対戦。試合の序盤から、相手の強いショットに押され、甘くなったところで繰り出されるスマッシュに対応できず1ゲーム目は大量リードを許すが、終盤は相手の球に対して、押されながらもやわらかいタッチでの返球も安定し始め、次のゲームにつなげる。2ゲーム目は、松本選手のペースでスタート。ゆったりしたドロップが球足短く、相手を前に引き出す。前後の振りを行うことで相手のミスを誘ってリードを作り、前半11-6。だが後半、相手選手もショットの優位性を生かして反撃。松本選手も後ろに下げられ苦しい態勢に陥るが、球をはじいてしのぐ。追う側・追われる側、どちらも苦しみながら点数を重ねたが、ついに19-20とマッチポイントを握られる。最後は、相手選手のスマッシュがラインに決まった。敗れはしたものの、ショットを速さではなく、正確にやわらかく返すことで十分に自分のラリー展開を生み出していた。(10-21 19-21)



松本紗季選手

(広報委員 中村圭吾)

勝つための本物

GOSEN®
www.gosen.jp

株式会社ゴーセン 大阪本社 / TEL.06-7175-7116 FAX.06-6201-0741

西三河のバドミントン専門店

モリタスポーツ

豊田市山之手3丁目100番地
☎ <0565> 29-0055

特集

明日へ駆ける



令和5年度愛知県高等学校新人体育大会

9月に行われた各地区予選を勝ち抜いた選手たちにより10月21、22、28日の3日間、名古屋市の守山スポーツセンター、東スポーツセンターで県大会が開催された。初日に行われた学校対抗戦決勝は今年も男女共に名経市邨と岡崎城西の対戦となったが、例年以上に両校の力が拮抗しており、緊迫したラリーが展開された。

男子は1複馬場・樋(市邨)と加古・植木(城西)と2複中村・榎尾(市邨)と後藤・竹本(城西)の試合が並行して始まった。1ゲーム目はそれぞれ市邨が一気に攻めて城西の出鼻を挫き先取したが、2ゲーム目以降は明暗を分けた。1複は馬場・樋が加古・植木の猛追をしのぎ2-0で勝ち切るが、2複は後藤・竹本が2ゲーム目を終始リードして取り、追いついた勢いそのままにファイナルゲームも一気に押し切り2-1で城西が取った。1単は鷺見(市邨)と三ツ石(城西)の1年生対決。少し時間をおいて入った2単には複にも出場した馬場と後藤が当たった。城西は高いシングルス力を見せ、共に2-0で危なげなく勝利した。学校対抗戦男子で岡崎城西高校が県を制するのは平成27年度選抜以来8年ぶりとなる。キャプテン植木は「自分が1複を落としたが、後のみんながしっかりと取り切って勝利を掴んでくれた」とチームの力を強調した。

女子は1複で向井・清田の市邨エースダブルスに城西の山田・二反田が挑んだが2-0で市邨が取る。2複に城西のエースダブルス永平・伊藤を市邨の稲垣・岡島にぶつけるが、市邨1年ペアが粘り強いプレーでファイナルゲームまでもつれた熱戦を取り切った。1単は両校のエース伊藤(市邨)と松久保(城西)の対決となった。こちらも長いラリーが続いたが、競りながらも伊藤がじわじわと差をつけストレートで勝ち切った。結果3-0で市邨が勝利を取めた。キャプテン向井は「総体優勝で追われる立場だったが、攻める気持ちを忘れずに向かっていった。それが結果に繋がったと思う。」と話し、全国選抜でベスト8以上の目標を誓った。

なお12月に一宮市で東海選抜、3月に滋賀県大津市で全国選抜が開催される。

	男子			女子		
	学校対抗	複	単	学校対抗	複	単
優勝	岡崎城西	馬場・樋(市邨)	三ツ石(城西)	名経大市邨	向井・清田(市邨)	伊藤(市邨)
準優勝	名経大市邨	中村・榎尾(市邨)	後藤(城西)	岡崎城西	伊藤・阿保(市邨)	稲垣(市邨)
第3位	愛産大三河	植木・加古(城西)	植木(城西)	星城	永平・伊藤(城西)	松久保(城西)
	愛工大名電	三ツ石・西尾(城西)	加古(城西)	豊川	松浦・加藤(市邨)	宮田(星城)



岡崎城西



名経大市邨

大府

JR 大府駅西口徒歩 8 分

バドミントンプロショップ
リーダーズ グループ

SINCE 1979

名古屋一社

地下鉄一社南出口より徒歩 2 分

はりーあっぷ

代表 中口直人

TEL(0562)44-5529 FAX(0562)44-5594

(有)リーダーズ

代表取締役 菱田修光

TEL・FAX(052)703-2767

第35回 東海小学生バドミントン選手権大会

第35回東海小学生バドミントン選手権大会が10月22日、岐阜のメモリアルセンターで行われました。男女6年生以下、5年生以下、4年生以下のそれぞれ単複に分かれて実施され、熾烈な戦いが繰り広げられました。

シャトルを自分のコートに落とさない!勝ちたい!という強い気持ちが選手たちの表情やプレーから感じられ、久しぶりに胸が熱くなりました。集中力を途切らすことなく、練習してきたことが全て出せたことが勝因の選手。一方、長いラリーについていけず息が上がってしまい、攻め切ることが出来なかったことが敗因の選手。どの選手も次に繋がる試合になりました。

12月に沖縄で行われる全国小学生バドミントン選手権大会の切符を手に入れた選手たちには出場することを目標とするのではなく、その先の景色を見てほしい、一緒に見たいと強く思います。全小までの残り少ない時間を大切にしていきます。
(はりーあつぷジュニア 花堂季子)



6年生以下
男子複優勝
米谷・青山組
(はりーあつぷ)



5年生以下
男子単優勝
服部恵大選手
(Unibirds岡崎)



5年生以下
女子単優勝
浅野莉子選手
(長久手ジュニア)



4年生以下
男子単優勝
伊藤稜平選手
(師勝ジュニア)



4年生以下
女子単優勝
渡邊世怜菜選手
(大里東ジュニア)



4年生以下
男子複優勝
田中・平野組
(TOYOKAWA Jr.B.C)



4年生以下
女子複優勝
花堂・三ツ石組
(はりーあつぷ)

第143回 令和5年 秋季愛知県新人バドミントン大会

令和5年8月26日、9月2日、9日 稲永SC、緑SCにて開催。優勝者は以下のとおり。

〔男子単〕山本翔大(市邨中) 準決勝第1試合は、山本とKOKACAREの矢島が熱戦を繰り広げたが、体力的に勝る山本が勝利。決勝でも岡崎城西の高野をファイナルゲームで下し、優勝を果たした。

〔女子単〕井上梨海(大里東Jr) 念願の優勝を勝ち取った。「第1シードだから絶対に優勝しようと思っていた。高校に進学したらインターハイで活躍したい」と目を輝かせた。ジュニアの活躍が目立つ中、個人登録で社会人の吉田の健闘も光った。

〔男子複〕三木悠汰・杉村真弥(愛工大名電高) 決勝は共に内枠から勝ち上がって来た高柳・比留木組(RHBT・SMILE)と戦った。両ペアとも決勝まで全てストレートで勝ち上がり、余力を残した状態での試合となった。高校生ペアが無駄なく丁寧に相手を動かし、甘んじてきたところをたたき、終始落ちついて主導権を握り、21-19、21-16のスコアで優勝を飾った。試合後は「楽しかった。嬉しいです」と元気に爽やかな笑顔だった。

〔女子複〕中尾小晴・内山莉緒(瀬戸南山中・長久手南中) 単と同じく中学生の活躍が目立った。決勝は岩倉パラレルの浅井・田口組との対戦となった。第2シードの中学生ペアは緩急をつけながら丁寧にコースをついて相手のミスを誘い、社会人ペアは要所で力強いスマッシュで決めるという展開でファイナルゲームまでもつれた。一進一退の攻防を中学生ペアが粘り強く取り切った。終わってみれば3ゲームとも21-19という激戦であった。「(中学生として)最後の試合を勝ち切って終わってよかったです」とはにかみながら喜びを語った。

(広報委員長 浅井 淳、広報委員 大村悠介)



山本翔大選手



井上梨海選手



(左)杉村真弥選手 (右)三木悠汰選手



(左)中尾小晴選手 (右)内山莉緒選手

★愛知のホープ★

みつ いし こう た
三ツ石 幸太 (岡崎城西高校1年生)



兄の影響で小学校2年生から、クラブチーム「はりーあっぷ」にてバドミントンを始めました。持ち前の器用さと左利きという武器を生かし、メキメキと頭角を現すようになりました。しかしながら、あと一歩というところでチャンスを逃す悔しさを何度か経験し、メンタル面の弱さの克服とフィジカル面の強化という課題もありました。

高校に進学してからは、多くの遠征の中で実践経験を積み、格上の選手にも食らいついていくことでメンタル面が強化され、勝負強さも出てきました。トレーニングに対しても決して妥協することなく取り組んでおり、今後さらなる飛躍が期待できます。

さらに、勉強面でも非常に優秀で、特進コースにおいてトップレベルの学業成績を残しています。公式戦や定期考査で非常にハードなスケジュールの中でも、英検準2級を高得点で取得するなど、他の生徒の模範となっています。勉強と部活動の両立に日々励み、文武両道を高いレベルで実践しています。

地元開催の全日本ジュニアバドミントン選手権大会には、ダブルスで出場しました。惜しくも1回戦敗退となりましたが全国大会で戦えたことが大きな自信になりました。その後、新人体育大会では、県大会団体戦優勝の原動力となり、個人戦単でも見事優勝を果たしました。これから東海選抜大会に臨むこととなりますが、きっと個人単でも全国選抜への切符を勝ち取り、全国レベルで活躍できると期待しています。

全国大会でベスト8に入ることを目標としています。愛知のホープとしての活躍に是非注目し、応援をよろしく願います。
(岡崎城西高校バドミントン部男子監督 野瀬泰弘)

連盟NEWS

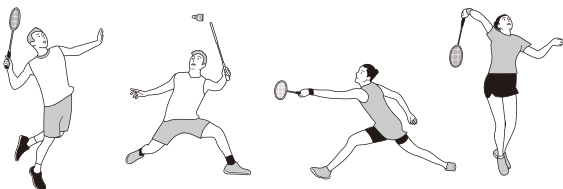
小学生バドミントン連盟

11月23日(木・祝)メディアス体育館おおぶで「第29回愛知県小学生バドミントン大会東海大会団体戦予選会」を行いました。

1複2単の構成。男子14団体、女子21団体が出場。リーグからトーナメントを行い、男子6団体、女子8団体の出場が決まりました。

男女ともに優勝した、はりーあっぷジュニアをはじめ、出場権を得た団体は2024年2月18日、三重県サンアリーナでの本戦に向けて一段と練習に励むことでしょう。目指せ、東海大会優勝!

	男子団体	女子団体
優勝	はりーあっぷジュニア	はりーあっぷジュニア
準優勝	SGUジュニア	西尾ジュニア
3位	西尾ジュニア	石ヶ瀬スポーツ少年団
4位	Unibirds岡崎	長久手ジュニアバドミントン部
5位	大里東ジュニア	ウスタリアジュニア
6位	TOYOKAWA Jr.B.C	安城ジュニア
7位		横須賀Jr.
8位		T-Jump Jr.



審判連載 ルールブック講座

第10回 「プレーの継続、不品行な振舞い、罰則①」

池上 信之

競技規則第16条第1項『プレーは最初のサービスからマッチが終わるまで継続されなければならない。ただし、本条2項、3項で認める場合は除く。』とあります。今回は第2項インターバルについてです。

- (1) すべてのゲーム中に一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認める
- (2) 第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。

インターバル中は審判の許可を得なくても、コート周辺(競技区域)を離れてもよく、監督、コーチ等(2名まで)がアドバイスをするためにコート上(競技区域)に行くこともできます。ただし、主審の「20秒」のコールで監督、コーチはコートから離れなければなりません。あくまでも「60秒(120秒)を超えない」ということで、場合によってはインターバルをとらなくても良いです。また、インターバルの時間を超えてコートに入らない場合は遅延行為とみなされ、警告やフォルトの対象になりますので注意してください。

市町村だより

知多市スポーツ協会バドミントン連盟

◆第45回全知多バドミントン大会

開催日：令和5年11月4日(土) 高校団体戦
令和5年11月5日(日) 一般個人戦

会場：メディアス体育館ちた

知多半島5市5町の最大の大会に、高校団体戦(22校38チーム、222名)、一般個人戦(121組、242名)が参加し、熱戦が繰り広げられました。個人戦参加数はコロナ前に復活したようです。大きな声をだし、気合の入った試合が多く活気がありました。

種目	優勝	準優勝	3位	
高校男子団体戦	半田工科高校A	半田東高校A	半田高校A	大府高校A
高校女子団体戦	横須賀高校A	阿久比高校A	半田高校A	大府高校A
男子ダブルス1部	海老原将人(武豊町) 蛇子 恒紀(//)	森田 貴士(東海市) 井上 聖悟(//)	藤田 康史(東海市) 間瀬 亮介(//)	
男子ダブルス2部	鈴木 友博(東浦町) 高岡 正周(//)	福原 優(東海市) 竹内 涼(//)	井上 智晴(知多市) 浅井 貴大(//)	福岡 暖大(東海市) 松下 蒼馬(//)
男子ダブルス3部	土肥 憲司(常滑市) 山田 武志(//)	石川 大樹(半田市) 安里 友亮(//)	森田 秀次(常滑市) 伊奈 弘晃(//)	城 郁之(常滑市) 川上 一輝(//)
女子ダブルス1部	森田恵里奈(東海市) 二宮 由佳(//)	鈴木 香純(東海市) 前田 百花(//)		
女子ダブルス2部	高田 美峰(半田市) 竹内 晴香(//)	前崎 千尋(武豊町) 上野 梓(//)	牧村友紀奈(阿久比町) 阿知波由依(//)	
女子ダブルス3部	中川 朋香(東海市) 青木 愛花(//)	小西 璃紗(美浜町) 山田 莉恵(//)	金井 穂花(大府市) 池田 未空(//)	平野 阿喜(武豊町) 増田 麻子(//)

◆第36回知多市ジュニアバドミントン大会

開催日：令和5年10月15日(日)
会場：メディアス体育館ちた

市内5つの所属ジュニア教室から、シングルス60名、ダブルス29組の参加があり、父兄の熱い声援を受けて頑張りました。(市の委託事業)

種目	優勝	準優勝	3位	
6年以下ダブルス	高橋翔太郎(知多J) 竹之下大悟(//)	井平 有優(八幡バス) 豊田 快斗(//)	濱野 光紗(新知J) 池山 紗弓(//)	平松 蒼都(八幡バス) 山田 蓮心(//)
5年以下ダブルス	堀越 直人(新知J) 濱野 晃斗(//)	早川 莉秀(新知J) 立岩 希衣(//)	柴本 丞真(知多J) 西 玲社(//)	
4年生以下ダブルス	深川 雅晴(旭北小J) 早川 梨菜(//)	恒川 遼太(八幡バス) 工藤 充剛(//)	青木 咲晴(旭北小J) 青木 美璃(//)	
6年以下男子シングルス	豊田 快斗(八幡バス)	井平 有優(八幡バス)	平松 蒼都(八幡バス)	高橋翔太郎(知多J)
6年以下女子シングルス	松本あすな(佐布里小)	濱野 光紗(新知J)	賢生 彩友(知多J)	
5年以下男子シングルス	堀越 直人(新知J)	竹之下大悟(知多J)	池尾 颯太(知多J)	
5年以下女子シングルス	立岩 希衣(新知J)	早川 莉秀(新知J)	池山 紗弓(新知J)	
4年以下シングルス	濱野 晃斗(新知J)	飯田 凪海(知多J)	深川 雅晴(旭北小J)	早川 梨菜(旭北小)

連絡投稿 〒453-0851 名古屋市中村区畑江通6-14 広報委員長 浅井 淳(あさい じゅん)

公式サイトアドレス <https://www.badminton-aichi.com/>
Eメールアドレス info@badminton-aichi.com



一宮バドミントン協会

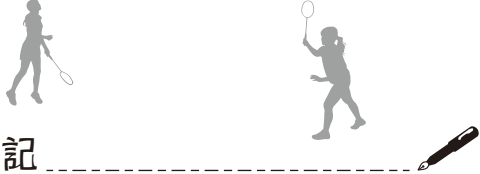
◆一宮市民秋季バドミントン大会

9月24日一宮市総合体育館にて開催されました。参加者数132ペア。

女子1部優勝、安藤、大場組は、「また頑張ります」[今回は全勝優勝!]とコメント。

種目	優勝	準優勝	3位	
男子1部	源口 哲史 近藤 峻矢	鷺見 直紀 丹羽 涼允	丹羽 悠花 末松 功大	
男子2部	村瀬 誠 渡部 元樹	吉永 正樹 近藤 祐生	杉江 凌輔 馬場 章貴	清原 政行 中葉 達也
男子3部	杉山 健介 高橋 健太	細川 祐二 山口 大輔	恵 将太 矢田 悠介	池上 力功 毛利 泰雅
男子初心者	入山 真也 土屋 真	池上 文春 長屋 宏隆	立川 拓磨 阿知波泰生	脇田 隼英 野澤 佑斗
男子シニアA	久木田佳裕 長瀬 寿一	田中 均 三輪 幸司	大浦 直人 古田 圭三	
男子シニアB	近藤 一男 鈴木 康夫	荻柴 雅俊 武藤 弘敏	松本 博 稲葉 正法	

種目	優勝	準優勝	3位	
女子1部	安藤 七海 大場 優芽	杉江紗矢香 脇田 乃幸	岡本 葵 伊東 沙依	
女子2部	田中 舞 稲井 鈴	平下ゆう子 丹下 美樹	小川紗矢佳 篠原 扶和	小松志津子 森 智美
女子3部	飯沼 朋美 和田 温花	西川登喜美 鈴木 祐子	肥田 菜摘 松永 悦子	鈴木 陽菜 高尾 優月
女子初心者	伊藤るみこ 小林 由佳	森 麻実 松崎 みさ	岩田 典子 岩田 真綾	西田 和代 山田 有里
女子シニアB	小池由紀子 松永 周子	栗林 直美 水谷万里子	鈴木 春江 春日井真理子	岩佐 直美 可児さとみ



編集後記

新年おめでとございます。
年末に嬉しいニュースが飛び込んできました。大同特殊鋼がS/JリーグII2023シーズンで優勝し、2024シーズンのS/Jリーグ昇格を決めました。これでS/Jリーグ(男女各12チーム)は愛知から男子4チーム、女子1チームが参戦です。益々、目が離せませんね。それに呼応するかのようにジュニア選手も頑張っています。今年も愛知県勢、みんな頑張れー!!
(広報副委員長 鈴木勝男)

スポーツごころを世界に。